



中土佐町教育研究所

研究所だより



桜の開花が待ち遠しい季節となりました。皆様方におかれましては年度末の慌ただしい時期となり、ご多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、研究所でも関係機関の協力を得て各事業を終え研究紀要も仕上がりを迎えました。事業の中心である中土佐検定は10年以上歩み続け成長してまいりました。本年度は、検定の実施にあたり再々テストの内容について見直しを行いました。また、認定証を直接児童生徒に渡す機会も持つことができました。本年度、研究所運営委員や議会の総務教育常任委員会の皆さんと意見交換の機会がありました。その中で、中土佐町の子どもたちの総合的な学力向上につながる事業として、中土佐検定の実績への評価や今後への期待など、多くの意見をうかがうことができました。今後、児童生徒を取り巻く環境の変化に沿って、児童生徒が受検に意欲を感じられる検定を目指して見直しを進めていきたいと考えています。

本年度取組を始めた、児童生徒支援の研究につきましては、成果が出るまでには至っていないのが現状です。増加傾向にある不登校や不登校傾向の児童生徒支援の研究には優先で取り組むべき喫緊の課題となっています。また、多様で複雑な児童生徒の環境・心理状態や不登校に至る要因など研究のポイントが多く、支援を機能的に連動して実施できる組織への一助として、研究を進めていけるようにしたいと考えています。

この一年間、各学校の検定担当者の先生をはじめ、教職員の皆様には、中土佐検定への取組及び実施へのご協力をいただき、心から感謝とお礼を申し上げます。

中土佐町教育研究所 所長 古谷智史

令和6年度 研究所の主な取組

- ① 基礎学力定着の取組「中土佐検定の実施」
(小学校算数3回、中学校数学・英語各3回、中学校漢字2回)
- ② 中土佐検定の結果分析と間違いランキングの作成
- ③ 中土佐検定テキスト修正(小学校【算数】中学校【数学・英語・漢字】)他「ことばのきまり」
- ④ 中土佐検定の取組支援(各学校の要望に対する支援)
- ⑤ 児童生徒支援の取組(適応指導教室との連携)
- ⑥ 各種学力調査の結果分析と中土佐検定の関連調査
- ⑦ 各種会合の開催【研究所運営委員会(2回)、検定担当者会(小・中各2回)、教科担当者会(英数各1回)、教育委員会との打合せ会(8回)】
- ⑧ 各校の校内研修会・研究授業への参加
- ⑨ 情報発信(町広報紙掲載、研究所だより発行(4回)、ホームページ更新)
- ⑩ 研修会への参加(高知県教育研究所連絡協議会、教育研究所中西部地区連絡協議会研修会)
- ⑪ こどもセンター、あったかふれあいセンター「まんまる」との連携、協力

第3回 中土佐検定結果

令和6年度第3回の中土佐検定は、1月に中学校「漢字」の検定を、2月に小学校「算数」、中学校「数学」「英語」の検定を実施しました。結果は次の通りです。

令和6年度 3学期 中土佐検定結果 (合格率は最終結果)

小学校 算数 (第3回)

学年	1年生 (16級)	2年生 (13級)	3年生 (10級)	4年生 (7級)	5年生 (4級)	6年生 (1級)	町全体
受検者数	27	27	36	29	31	26	176
平均点	96.7	98.1	93.2	82.9	81.5	84.9	89.6
合格率(%)	100%	100%	100%	97%	97%	100%	98.9%

中学校 数学 (第3回)

学年	1年生 (7級)	2年生 (4級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	30	39	32	101
平均点	76.8	81.9	86.4	81.9
合格率(%)	80%	95%	91%	89%

学校で検定に取り組んでいる児童の様子



中学校 英語 (第3回)

学年	1年生 (7級)	2年生 (4級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	30	39	32	101
平均点	73.1	82.2	90.7	82.3
合格率(%)	77%	90%	91%	86%



中学校 漢字 (第2回)

学年	1年生 (5級)	2年生 (3級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	30	39	34	103
平均点	85.6	75.7	95.0	85.1
合格率(%)	83%	92%	94%	90%

第2回 中土佐検定担当者会

小・中学校の第2回中土佐検定担当者会をそれぞれ開催し、年間の検定結果や各校の取組の成果や課題を共有しました。一部抜粋ですが掲載します。そのほか小中の検定テキスト、社会科副読本とことばのきまりテキストについて、改善のための対応について協議をしました。研究所として改善できる内容についてはすぐに対応し、また、改訂等を待たなければならない内容もありますので、改訂時に検討したいと考えています。たくさんのご意見をありがとうございました。＜ ＞内に対応を記述しました。

小学校 成果

- ・プレテストを繰り返すことで検定の取組強化ができた。
- ・プレテストを何回も練習してまじめに取り組み合格できるように頑張った。
- ・プレテスト等に取り組むことで、子どもたちのつまづきを再確認することができる
- ・連続で百点をとれたことが意欲付けになっている児童もいる。
- ・練習問題に使用し、計算量がついた。
- ・学習内容を復習し検定によって確認できるのでありがたい。
- ・テストを何回も練習して合格できるように頑張りと、検定の取組強化ができた。
- ・問題に繰り返し取り組み習熟を重ねることが、計算領域の基礎的な力の育成につながっている。
- ・検定の認定証を研究所の先生から表彰していただいたことで児童の励みになったと感じる。

小学校 課題

- ・6年生3級は6年生の1学期の単元なので早々に取り組むことができない。見直しをお願いしたい。＜テキスト改訂の際に検討＞
- ・冊子のスペースがせまくて、計算できないので、1ページの問題数を減らして、刷紙だけで取組ができるようにしてほしい。(別に計算用紙が必要な児童、1ページに1時間ぐらいかかる児童)＜テキスト改訂の際に検討＞
- ・検定までの期間が短く、間違った問題を繰り返し解くことや対策に不十分なことがあった。＜テキスト改訂の際に検討＞
- ・県のサポート教材もあるので、担任としては少々負担を感じている。
- ・分数の計算で答えが変な数字になるものがあり、不安に思う児童がいるようだ。＜検定問題作成の際に考慮＞

中学校 成果

- ・検定1カ月前からの取組強化月間を設定し、朝と夕に教科を指定し学習タイムを実施した。
- ・数学・英語はプレテストや小テスト、過去問をコピーして日々の家庭学習として取り組ませた。
- ・国語の授業内で、開始時に小テスト(漢字・語句・文法)を実施している。
- ・学年によっては、プレテストの結果が良くなかった生徒に補充学習を行った。
- ・英数の再テストの日をずらして、一教科の学習に集中できるようにした。
- ・研究員に支援に来てもらった。
- ・プレテストから学習を2回繰り返し、子どもたちが個々の課題を明確にとらえ、その克服のために学習に取り組むことができた。そのことから、学習の方向性が明確になり、より一層意欲的に学習に取り組むようになった。
- ・課題が明確になったり、学習の方法をしっかりと身につけることができたりするような取組となっているので、家庭学習の充実にもつながっている。
- ・子どもたちに少しずつ成長することの大切さも伝えていくことで、本試験で合格することができなくても、次の目標に向かって努力していこうとする自己効力感の高揚も感じられるようになった。

中学校 課題

- ・学習時間を設定しても、取り組まない・集中できない生徒が一定数おり、再試や再々試を重ねても点数を上げられなかった。
- ・長期休業明けの検定は学校での取組を充実させることが難しく、家庭学習に頼ることが多くなってきている。そのため自己効力感の高揚という視点からは十分な成果を上げることができなかった。
- ・この解消のためにも、長期休業前からの取組を計画的に実施していくことが必要であると感じたので、来年度以降は各検定前の取組についても行事予定表や学力向上のためのロードマップに記載し、全教員が意識した取組となっていけるようにしていく。

[小学校「ことばのきまり」]

- ・冊子だと振り返りがしやすく見やすいので冊子も欲しい。
- ・ことばのきまりの内容構成について、もっと手軽に取り組める内容、基本的な力をつける内容にするとともに効果的だと感じる。＜テキスト改訂の際に検討＞

[小中検定テキスト]

- ・教科書では知識の一つとして扱う内容が出ている。＜検定問題作成時に配慮する＞
- ・答えの場所を次のページにするなどの工夫を検討してもらいたい。
- ・問題の並びと解答の並びが異なることがあり自己採点で時間がかかる、解消していただけると、より取組の充実につながると思う。＜テキスト改訂の際に検討＞
- ・試験のルビ振りの配慮同様、テキストやプレテストのプリントでもしてもらえたらありがたい。＜デジタルテキストでなら対応できる可能性は高い。検討していく＞
- ・英単語の意味が多様な問題についてテキストでは意味が一つになっている。＜検定問題作成時に配慮する＞
- ・数学においても多様な答え方の問題もある。()表記など工夫してもらえたら。＜テキスト改訂の際に検討＞

[社会科副読本「中土佐のくらし」]

- ・地域教材資料として有効的に活用させていただいている。
- ・共通教材とどのように併用すればよいかが難しい。
- ・評価問題で、解答が難しいと感じるものもある。＜次年度の評価問題を訂正＞
- ・写真、グラフ、表、など資料とともに新しくしてもらえたらありがたい。＜次回の副読本改訂の際に検討＞



第2回 研究所運営協議会

本年度第2回教育研究所運営委員会を3月3日に開催しました。本年度の研究所の取組の総括や年間通した中土佐検定の結果等を確認し、委員の皆様より研究所運営についてのご意見をいただきました。一部抜粋ですが下記のような意見がありましたので報告します。貴重なご意見をありがとうございました。

- 県内の小中学校では、学力向上で苦戦している中で、本年度の中土佐町の結果を見ると健闘しているのではないかと思います。以前から見ると右肩上がりの結果となっているので、検定の成果といえるだろう。
- 学校では個別の支援が必要な児童生徒は年々増えていると感じている。基礎学力の定着も重要だが、できる喜びを感じられることを大切に今後も取り組んでもらえるとありがたい
- i-check（アイチェック）；[学級の様子を把握するアンケート調査]の分析では学校や友人関係、家庭での様子など多様な方面から情報が分かることを知ることができた。分析したデータがあることで、気づきもあった。
- 学校ではQ-Uアンケートを実施しているが、i-checkはその結果とは異なるものもあった。情報として非常に有効的なものだったので、今後、保護者や学校へのフィードバックもあればありがたい。
- 小学校では中学校を見据えて学力や友人関係のサポートも行っている。しかし、学校現場の多忙感はあるので、研究所に少しでもサポートしていただけて助かった。
- 県内の市町村で、中土佐町のような独自のテキストを活用して、学力定着の取組をしている市町村はあるのだろうか。非常にいい取組だと思うので、もっとPRすればいい。
- 強みは伸ばしていき、弱みをどう改善していくのか、研究所だけでなく学校とも協力して子どもの力をつけていてもらいたい。

あいあいルームのとびら

早いもので、今年度も終わりをむかえようとしています。中土佐町適応指導教室（あいあいルーム）は、今年度支援員2名を中心にSSW、育成センター、教育研究所が協力しながら運営してきました。こどもセンター内の体制は昨年とはガラッと変わり、教育研究所が同じ事務所に加わり、支援員とSSW1名ずつが常勤の職員として新たに加わりました。

今年度あいあいルームでは、延べ日数232日、通室生・通室生以外も含めて児童生徒の支援に関わることが出来ました。また、あいあいを卒業した高校生の子たちも来所してくれました。受験前には、中学3年生に進路選択や、入試に向けてのアドバイスをしてきていました。

あいあいルームでは自分でその日の予定を立てて過ごしています。学習だけでなく、ピアノやギター、ホールでソフトバレーやバドミントン、畑では野菜や花を育て、育った野菜は調理実習をしておいしく頂きます。音楽が得意な職員、畑作業が得意な職員、料理が得意な職員といった個性豊かな職員たちが、得意な分野を生かして子どもたちと関わりました。学習の場面では、教育研究所のメンバーにも入って頂き、子どもたちが研究所の先生に自分から教えてもらいに行く姿も見られました。

適応指導教室の支援員だけでなく、SSWや育成センター、教育研究所、こどもセンターの職員が積極的にこどもと関わり、見守り、保護者との関係も深めてくれました。こどもセンター内にある子育て支援センター「はぐ」や、あったかふれあいセンター「まんまる」の職員や来所者との交流もありました。センター長を中心に支援体制が整ってきています。適応指導教室と学校とのやりとりもスムーズに進み、今年度の卒業生は全員希望の進路に進学が決まりました。

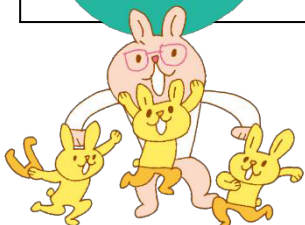
1年間を通して見えてきた課題もありました。個別支援が必要な生徒への適切な関わりや支援技術の向上、通室のルール確立、学習内容の充実、計画性を持った関わり、通室生同士の関係性の構築など。来年度に向けて、今年度の課題を意識してより良い支援の充実を目指して取り組んでいきたいと考えています。

子どもの
居場所

学校生活の
不安
学習サポート



こどもセンター
Nakatosa Kodomo Center



研究所便り 令和6年度 第4号

発行 中土佐町教育研究所

〒789-1301 高知県高岡郡中土佐町久礼 6551-1

TEL 0889-52-2250 FAX 0889-52-2643

発行日 令和7年3月18日